

# 言葉の耳袋 (10)

## 短歌をつくるたのしみ

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問 教育アドバイザー

張江 幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

**【1】私の短歌**

わたしの短歌歴を調べてみると、二つのことが分かりました。

- (1) 中2の国語の時間に作られた・・・このあとは誰の指導も受けいません。きわめて自己流なのです。
- (2) 重大場面に遭遇したとき・・・禍福いずれも心を揺さぶられたときに短歌を詠んでいました。

人間誰でも、心を揺さぶられるような場面に出会ったとき、その衝撃を書きとどめておきたいと思います。私の場合はそれが短歌であったのです。

いま読み返してみると、喜びは当然のこと、苦しいことも、悩んだことも、短歌につくることで、楽しみに変わっていったようです。恥ずかしながら、そのいくつかを書き出してみました。なんだ、この程度なら自分にも出来そうだ。と思ってもらいたら嬉しいのです。

**① いまはもう異国となる故郷の祭りと同じ太鼓ひびけり**

中学2年生のとき、敗戦でカラフトから北海道の岩見沢に引揚げてきました。直ぐに秋祭りがありました。引き揚げと言うショックに打ちひしがれていった少年の耳に、カラフトで聞いていた同じ調子の太鼓の音が、風に乗って聞こえてきました。なぜかほっとしたのです。国語の先生に誉められたことが、このあとも作り続ける原動力になっています。

**② うなり来るボールに飛び込み手をのばす繋がるスパイク敵陣に刺さる**

バレーボール部で、国体予選の準決勝戦に勝ちました。その日の日記に書かれていました。

**③ 壇上に上がれば千の目が光る脚の震えに抗して立てり**

教員として、全校生徒の前に初めて立ったときの、緊張したこの日が懐しく蘇ってきます。

**④ 腕白のヒロシが涙浮かべつつ腕を伸ばして証書受け取る**

つらくて嬉しい日が卒業式。ヒロシ君は67歳。いまは薬学の研究所長として活躍しています。

**⑤ 校長先生キョウのネクタイきれいだよ登校生徒のうれしい言葉**  
ニューヨークの子は、はつきりと誉めます。人の長所を早くつかみ、すぐに誉めるアメリカ人から受けた影響でしょうね。私たちも見習いたいものです。**⑥ 一瞬の隙を突き来る剣のごと我の車は妻を倒しぬ**

車庫入れをしていた車と家の壁の間に、誘導していた妻は挟まれました。入院費200万円。全治3ヶ月。未来永劫、妻には頭が上がりません。

**【2】楽しく、短歌をつくる**

海外子女文芸作品コンクールの短歌選者佐々木幸綱先生は、有名な歌人ですが、早大教授として多くの歌人を育てている。子どもに短歌を教える先生や親は、ぜひ、先生の「短歌入門（日東書院）」を読んでください。この本や「地球に学ぶ

（海外子女教育財団）」に書かれた、短歌の作り方をお知らせいたします。

**【1】短歌の歴史**

短歌のはじまりは、日本の神話にまでさかのぼります。最初の有名な歌集「万葉集」編まれたのは7世紀後半頃のことです。つまり1400年ほど昔に登場しています。

**【2】楽しくつくる**

どうすればいいか。基本的に、発見、創造、冒険、この三つの楽しみが味わえる方向で作歌していく。ただ、形式に言葉を当てはめるのではなく、それなりの充実を味わえるような、発見、創造、冒険の喜びに導ければ理想的です。

**【3】まず、作ってみる**

短歌には、5・7・5・7・7、5句31拍という形式以外には規則はありません。この規則も、はじめはあまり窮屈に考えなくていい。自由に、作りたいように作る。この点をまず、強調しておきます。

一般的に言って、なんなくある短歌らしい短歌のイメージがあって、それに合わせようという傾向があります。これは良くない。最初に、古典や近代の名作を実例として教える必要はない。どうしても必要なら「地球に学ぶ」等にある同世代の作品を見せればいい。名作に触れるのは、自分が多少でも作る苦労を味わってからがいい。そのほうが名作の名作たる部分が良く分かるでしょう。

初めて短歌を作る人には、私はよくこういう言い方をします。短歌を作ろうとするな。自分を短歌形式を使って表現しようと心がけよ。ひと口に、自分を表現するといつても、これは大変難しい。とにかく、短歌らしい短歌ではなく、自分らしい短歌を作れ、そう指導していただければいいかと思います。

**【4】句切れについて**

5・7・5・7・7という「句切れ」を知っておくと、大分短歌形式が見えてくるでしょう。短歌は、どこも切れないひと続きの文章であってもろいし、どこかで切れる、いくつかの文章でもいい。実例をあげましょう。

**① 句切れなし（佐々木信綱）**

ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

**② 二句切れ（若山牧水）5・7／5・7・7**

白鳥はかなしからずや／空の青海の青にも染まずただよふ

